

現代に 息づく 「義」の心

戊辰戦争150年
〜会津若松〜

2018年は戊辰戦争から150年を迎える節目の年。福島県会津若松市は最大の激戦地となった会津戦争の舞台であり、白虎隊の悲劇などでも知られる。幕末の動乱期において、政局の変化に翻弄される中でも「義」の精神を貫いた会津藩。その精神は現代にも受け継がれている。現在、同市では戊辰150周年という節目に、「義」の精神や先人たちの功績を伝えようと、官民挙げて様々な取り組みを行っている。本特集では、戊辰戦争の概要や、史跡を紹介するとともに、こうした取り組みの一端を伝えたい。

目次

- P2 戊辰戦争とは
史跡・ゆかりの地を訪ねて
- P3 「冬の会津」を楽しむ!
〜今冬のイベント紹介〜
会津に根づく伝統の味
会津若松市長メッセージ
- P4 「より、そう、ちから。」の実現へ
〜東北電力グループの取り組み〜
会津若松支社長インタビュー

地域とつながり、未来へつなげる。

総合設備エンジニアリング企業として、
高品質の技術と新しい価値をご提供します。

総合設備エンジニアリング企業

Yurtec

株式会社 ユアテック

<http://www.yurtec.co.jp/>

本 社 / 仙台市宮城野区榴岡4丁目1-1 〒983-8622 TEL.022-296-2111
 東京本部 / 東京都千代田区大手町2-2-1 〒100-0004 TEL.03-3243-7111
 支 社 / 青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟・北海道・東京・横浜・大阪

※ユアテックは「ユアテックスタジアム仙台」のネーミングライツスポンサーです。

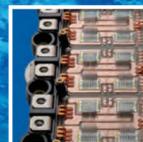
Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。



耐食・材料・熱水利用技術
地熱発電プラント



デバイス技術
IGBTパワー半導体



パワーエレクトロニクス技術
メガソーラー向けPCS
(パワーコンディショナ)



パワーエレクトロニクス技術
インバータ



パワーエレクトロニクス技術
UPS (無停電電源装置)



熱交換・冷媒制御技術
ハイブリッドヒートポンプ式
自動販売機

富士電機

富士電機株式会社 本 社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111
 東北支社 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1(仙台トラスタワー) TEL.022-225-5353

戊辰戦争とは 「義」に殉じた会津藩

会津藩は「將軍家に絶対の忠誠を尽くす」という藩祖以来の家訓の下、1862年から9代藩主の松平容保が幕府の京都守護職を務めた。治安維持や公武合体に大きく貢献し、国の安定に力を尽くしてきたものの、67年の大政奉還の後、旧幕府軍と新政府軍の対立は激化。68年1月に鳥羽・伏見の戦いが勃発し、戊辰戦争が始まってしまふ。

錦の御旗を掲げた新政府軍に、旧幕府軍は大敗。容保は新政府軍に対し、恭順の意を示したが、受け入れられることはなかった。また、会津藩を擁護する東北諸藩は奥羽越列藩同盟を結成し、和平を進めようとしたものの、それも一蹴された。

迫る戦火はもはや止められず、68年8月には新政府軍が藩境を突破し、会津攻撃を開始。白虎隊の悲劇なども発生する中、会津藩は鶴ヶ城に籠城しながら決死の戦いを続ける。しかし、城内には1日2500発を超える砲弾が打ち込まれ、籠城して約1カ月が過ぎた9月22日、ついに

に会津藩は力尽き白旗を掲げて降伏。こうして戊辰戦争最大の激戦と言われる会津戦争は終わりを迎えた。

幕府をはじめ朝廷にも忠誠を尽くし「義」を貫いたにもかかわらず、「賊軍」といういわれなき汚名を着せられた会津藩。戦後、故郷を追われ未開拓地への移住を強いられるなど、長い苦難の道をたどった。しかし、会津の先人たちは、努力と苦勞を重ね、教育や文化、政治といった様々な分野で多くの功績を残した。「義」を貫くその精神は、戊辰戦争から150年が経過した今も会津の地に息づいている。



1カ月にわたる激戦で、鶴ヶ城天守閣も大きな被害を受けた



京都守護職時代の会津藩主・松平容保

史跡・ゆかりの地を訪ねて

飯盛山・白虎隊十九士の墓

若き命散った悲劇の地

16~17歳の少年たちで編成された白虎隊が、この場所で黒煙に包まれる天守閣や城下町を見て、自刃した悲劇の地。その悲劇は唯一生き残った飯沼貞吉によって、世に知られることとなった。自刃の地には石碑が設けられており、隊士の墓の前では毎年春と秋に墓前祭が開かれ、剣舞が奉納される。

白虎隊の資料が展示されている白虎隊記念館のほか、上りと下りが全く別の通路になっている一方通行の構造が世界的にも珍しい「さざえ堂」も見どころ。



飯盛山の表参道には白虎隊記念館や「さざえ堂」など人気スポットが数多い

隊士19人が眠る墓。現在も多くの人が訪れ、白虎隊を偲んでいる。



幕末当時の姿を忠実に再現

鶴ヶ城

幕末の姿を復元、市民の誇り

1384年に、輩名直盛が東黒川館を築いたのがはじまりといわれる。戊辰戦争では約1カ月に及ぶ激しい攻防戦に耐えた名城として、その名を天下に知らしめた。明治政府の命令で取り壊されたものの、1965年に再建。2011年には天守閣の屋根の「赤瓦」へのふき替えが完了し、現在は幕末当時の姿を復元している。

鶴ヶ城公園内には天守閣のほか、茶室麟閣など様々な見どころがある。また、鶴ヶ城は市内のどこからでも天守閣を見ることができ、市民の誇り、憩いの場として今も親しまれている。



本丸跡には茶室麟閣があり、城内は様々な見どころがある

會津藩校「日新館」

優秀な人材を多数輩出

1803年、人材育成を目的に開設された会津藩の学問所を再現した施設。約8千坪の敷地には、日本最古のプールといわれる水練水馬池や講釈所、大成殿など、当時の施設が忠実に復元されており、壮大な江戸建築や当時の学習の様子を見学できる。

藩士の子弟は6歳から9歳まで「什」と呼ばれる組をつくり、「ならぬことはならぬ」の言葉で有名な会津藩士の心構えを学んだ。その後、10歳で日新館に入学し、学問や武道に励み、心身の鍛錬に努めた。新島八重の兄・山本覚馬や白虎隊士なども学んだほか、多くの優秀な人材を輩出した。



会津藩の最高学府を忠実に再現。当時の生徒数は1000人から1300人ほどであったという

日本最古のプールといわれる水練水馬池



阿弥陀寺、妙国寺

会津藩士の遺体を埋葬

阿弥陀寺境内には戊辰戦争時に密議の場所として使われ、戦後に鶴ヶ城本丸から移築された「御三階」や戦死者1281体を埋葬した墓、新選組・斎藤一の墓などがある。

妙国寺は自刃した白虎隊の遺体を最初に埋葬した寺。戦後に会津藩主松平容保父子が1カ月謹慎した寺としても有名だ。



阿弥陀寺境内にある「御三階」は、当時の鶴ヶ城の遺構として現存する唯一の建物



妙国寺には白虎隊の遺体が仮埋葬された

会津武家屋敷

当時の武士の暮らし再現

7千坪の敷地に会津藩家老の西郷頼母邸が復元されており、当時の会津武士の暮らしが偲ばれる。屋敷内では、会津武士道を中心に、会津の歴史や文化を紹介している。ほかにも歴史資料館、精米所、県重要文化財の陣屋や茶屋などが軒を連ねており、江戸時代の会津を体感することができる。



当時の会津武士の暮らしを知ることができる

旧滝沢本陣

戦いの痕跡とどめる

通常時は、参勤交代や領内巡視などの際に、藩主の休息所として使用されていた。戊辰戦争の際には、会津藩の本営となり、白虎隊もここから出陣した。当時の姿のままの建物が残されており、国の重要文化財にも指定されている。また、建物のいたる所に弾痕や刀傷があり、当時の戦いの痕跡をとどめている。



戊辰戦争の際は会津藩の本営となった

“冬の会津”を楽しむ!

～今冬のイベント紹介～

今年は1868年に勃発した戊辰戦争から150周年の節目の年です。

幕末において会津藩は、京都守護職として、京都の治安を守り、天皇や幕府の信頼を得てきましたが、政変の流れの中で戊辰戦争に突入し、奮戦の末、多くの犠牲を出しながら敗戦を迎えました。

その後、会津が歩んできた道のりは、大変険しいものでありましたが、私達の先人達はこれを乗り越え、数多くの功績を残してまいりました。

戊辰戦争において会津が貫いた「義」の姿勢、そして先人の功績は、今日の会津を特徴づけ、また全国各地との結びつきを深めることにも繋がっております。

この節目の年に、会津の歴史や文化を全国の皆様に改めて知っていただくため、会津若松市では「『義』の想い。つなげ未来へー。戊辰150周年」をキャッチフレーズに様々な記念事業を実施して、皆様をお迎えしており、多くの皆様に訪れていただいております。

郷土の歴史と伝統を守り、次の世代に引き継いでいく財産として、さらに地域の発展に努めてまいります。

会津の歴史と 伝統を引き継ぐ



会津若松市長
室井 照平氏

郷土食で“おもてなし”

江戸時代、内陸部に位置する会津では新鮮な魚介が手に入りやすかったため、こづゆやニシンの山椒漬、棒たら煮など、保存に適した干した魚介を使用する食文化が発展してきた。

こづゆは、干した貝柱などで出汁を取った料理で、江戸時代には、武家を中心に食されていたが、次第に庶民のご馳走として広まった。現在でも会津の冠婚葬祭には欠かせないものとして各家庭で食されている。小さく底が浅めの「手塩皿」に盛られて出され、客人は何杯でもお代わりしてよいとされており、精一杯もてなそうとする会津のおもてなしの心が表れた郷土料理だ。



こづゆ

7または9種の具材の数は奇数で縁起がよいとされている

現代の“おもてなし”

会津若松市内では、宿泊者を対象に「極上のはしご酒」というイベントを2019年3月末まで開催している。宿泊施設に備え付けのパンフレットを持参し、市内の協力飲食店を訪れると、会津の伝統食を始めとした様々な料理と酒のセットを1000円で楽しめる。



さくら刺し

会津坂下町に馬の競り場があったことからさくら肉、いわゆる馬肉が会津の名物になった。ぜひ会津の地酒とともに味わいたい

ニシンの山椒漬

棒たら煮



山国の会津の人々にとって、貴重なタンパク源として代々受け継がれてきた

会津絵ろうそくまつり

市内各所で幻想的な雰囲気



会場となる御薬園では、竹筒で心字の池を取り囲み、幽玄・幻想の世界を演出する

和ろうそくの胴に、季節の草花などが色鮮やかに描かれた会津の伝統的工芸品「会津絵ろうそく」。江戸時代から変わらぬ製法で、現在も職人が一本一本手作りで仕上げている絵ろうそくは、県内外で高い人気を誇っている。

会津若松市では毎年2月に、この絵ろうそく約1万本を使った「会津絵ろうそくまつり」を開催している。鶴ヶ城や御薬園をはじめ、市内各所がやわらかであたたかな光に照らし出され、幻想的な雰囲気を楽しむことができる。

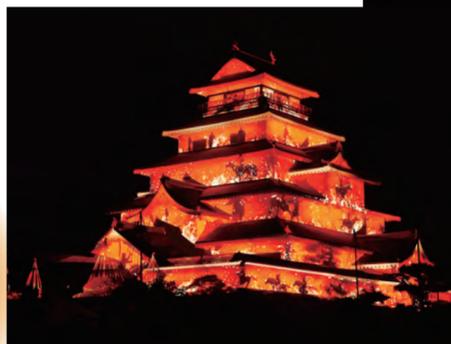


市内各所でそれぞれ趣向を凝らした絵ろうそくが灯される

天守閣舞台に鮮やかな光景描く

鶴ヶ城プロジェクションマッピング

来年3月に鶴ヶ城を舞台にプロジェクションマッピングが開催される。天守閣に投影される色鮮やかな光景は必見だ。プロジェクションマッピングには、「東日本大震災からの復興の願いを全国に発信する」という思いも込められている。戊辰戦争150周年を記念した今年のテーマは「～戊辰の風 花の雲～」。福島に現在も息づく「試練に立ち向かう勇氣」と「不屈の魂」を描いた。



色鮮やかな光景が天守閣に投影される姿はまさに必見だ



出演アーティストの美しい歌声に合わせて、色鮮やかな映像が映し出される

アイツテラス

雪面に咲き誇る光の花々



会津の冬を見て、触れて、撮って、遊ぶことができる

2018年は「光と影 雪深い会津の冬に咲く花」をテーマに開催

鶴ヶ城本丸を中心に、会津の大自然をテーマとした「アイツテラス 体感! 光のミュージアム」が2月に開催される。冬ならではの幻想的な空間で、見て、触れて、撮って、遊べる体験型のLEDイルミネーションイベント。

先人たちが様々な知恵を駆使して楽しんできた「雪深く、夜が長い会津の冬」ならではの魅力を表現している。会津絵ろうそくに描かれる花々が雪面に咲き誇り、幻想的な光景が来訪客を出迎える。



「より、そう、ちから。」の実現へ ～東北電力グループの取り組み～

戊辰戦争から150周年を迎えるに当たり、東北電力も地域の一員として機運の盛り上げや観光客の誘致に貢献する取り組みを行っている。無線鉄塔のライトアップや配電用地上機器のラッピングなど、同社設備を生かした様々な施策を展開。同社は今後も地域の活性化につながる取り組みを継続して実施していく考えだ。

東北電力会津若松支社の取り組み



鶴ヶ城公園で植樹

戊辰150周年を記念し、桜の名所としても知られる鶴ヶ城公園で植樹を行った。活動に当たっては、同市内に所在する東北電力グループ11社の従業員らからカンパを募り、オオヤマザクラの苗木11本を同市に寄贈。そのうちの1本を鶴ヶ城公園に植樹するとともに、残りの10本を市内の総合運動公園内に植樹した。11本という苗木の本数には、グループ企業11社の絆をより強くしたいとの思いも込められている。

鶴ヶ城公園での植樹には、二坂支社長も参加した

配電用地上機器をラッピング

市内の配電用地上機器に観光案内のラッピングを行い、地域の盛り上げに一役買っている。市内の神明通りや野口英世青春通りにある10基に市街地図を掲載。現在地に加え、鶴ヶ城、飯盛山といった名所の位置や現在地からの距離を表示している。地図には、英語表記のサイトにアクセスできるQRコードも掲載し、外国人観光客にも配慮している。また、観光名所周辺にある計30本の電柱には、広告と観光案内が一体となった看板も設置した。



配電用地上機器にラッピングを行い、市内を分かりやすく案内している



無線鉄塔ライトアップを実施

会津若松支社構内にある無線鉄塔のライトアップを実施している。点灯時間は日没～午後10時まで。季節ごとに色を変えて点灯するほか、毎正時には「会津藩バージョン」として15秒間隔で、黒(玄武隊)→青(青龍隊)→赤(朱雀隊)→白(白虎隊)の4色に変化する点灯を行っている。地域の祭りやイベントに合わせた特別な演出も行っている。

多彩な彩りが観光誘客に一役買っている

会津地域における東北電力の役割とは。

水力の大電源地帯であることを踏まえた上で、電力の安定供給を続けることが、何より果たさなければならぬ我々の役割であると思っています。また、地域とともに歩む事業者として、電気事業という分野から地域の発展に貢献していくことも我々の使命と考えています。

今後どういった取り組みを展開していきたいか。

地域の中心であるとともに観光と歴史の街である会津若松市がもっと元気になることが必要だと考えています。現在、地域の祭りへの協力やイベントのボランティアなど様々な活動を展開していますが、今後もコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」の下、地域が元気になっていくような取り組みを企業グループ一丸となって続けていきます。

会津若松市の魅力を。

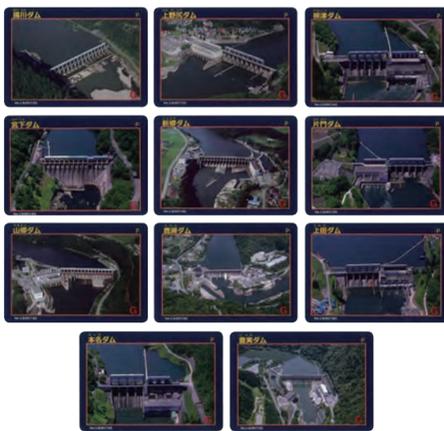
会津若松市は、会津のシンボルである鶴ヶ城や白虎隊ゆかりの地、飯盛山やさざえ堂など歴史情緒あふれる城下町です。また、一年を通じて様々な祭りやイベントがあり、豊かな自然と温泉も楽しめます。「水どころ」、「米どころ」でもあり、名水とおいしいお米で作る地酒は格別です。是非、多くの皆さまにお越しいただき会津の歴史と魅力に触れていただきたいと思っています。

〈支社長インタビュー〉 企業グループ一丸で 会津を元気に

東北電力
会津若松支社長
二坂 広美氏



ダムカードを制作・配布



会津若松支社が管理する、阿賀野川水系のダム11地点の「ダムカード」を制作し、道の駅などで配布している。会津地域には、戦後の復興や高度経済成長を電力供給面から支えた、同社の歴史ある水力発電所が数多く立地。ダムカードを通じて、立地地域の魅力を紹介すると同時に、水力発電の果たす役割についても伝えている。カードは、ダムを訪れたことが確認できる写真を提示すれば入手が可能だ。

カードの配布を通じ、立地地域の魅力を伝えている

戊辰戦争150年 ～会津若松～

現代に息づく「義」の心

